「市民編集委員」任期を終えて

市民が市民の目線で企画編集する市民編集のページ。公募で選ばれた８人が、２年にわたって、取材や編集に奮闘しました。ここでは、任期を終えての感想などを紹介します。

市民が作る 市民編集のページ Vol.115

問い合わせは　市政発信課 ☎ 027-898-6642

全てこの世に光ある広報を求めて

金子 侑司

「川ありて　川音のなき常の道　人には言はねど　われはよろこぶ」

市民編集委員は、常に「よい絵を見て」「いい音楽を聴き」「良い本を読み」一般常識を備える必要があると思います。

広報まえばしでは数回記事を書きました。社会貢献をしつつより良い広報にするため、また、市民に広く知らせるため、編集会議では激しく議論を交わしたこともありました。果たしてどれだけ皆さんに伝えられたか疑問に思います。

取材し、若い人、高齢者であれ、今現在を生き生きと、希望を持って暮らしている人々の姿には感動しました。

前橋の美しさを再認識

狩野 有沙

編集委員としての2年間、さまざまな「前橋市」の顔を見て、感じて、勉強しました。私は市内の大学に通っていますが、はじめは前橋市について知識が乏しいと感じました。ですが、一緒に取材をした編集委員の人たちや職員から多くを学ぶことができました。

取材をとおしてあらためて前橋市の美しさと歴史を肌と心で感じました。編集委員の経験は私の人生の中でとても貴重で、今後社会人になる上で心強い自分の礎になると信じています。これからもすばらしい「前橋市」を見つめていける機会を積極的につくっていきたいと思います。ありがとうございました。

広報は、前橋を歩くのに必要なツール

坂本 美樹

Uターンした前橋には、新しい踊りと、新しいゆるキャラ。区画整理で道と建物が入れ替わり、住民の出身地域の割合も変貌していました。前橋を知り、前橋を歩くのに広報が必要とお話しして、市政発信課長に驚かれてから2年。

編集畑出身の私は、制作上は、部下に言うかのごとく誠心誠意意見を言いつつ、紙面作りを楽しみました。また、広報作成業者の選定にも選考委員として参加しました。

写真が掲載されると、14万部発行の威力で、見知らぬ人にも声を掛けられます。市民と市役所をつなぐ広報。ご意見番役割なら、今後も経験豊富な人がよいでしょう。

出来上がった広報を手に感激

立田 洋子

市民編集委員みょうりに尽きる2年間でした。

私の取材はJリーグ・ザスパクサツ群馬と市の防災対策でした。ザスパファンの皆さんとの楽しい触れ合いや記者席での試合観戦、前橋駅前のベンチを災害時の炊き出し釜やトイレに組み立てていただくなど、編集委員ならではの楽しい経験ができました。

編集会議で、思いを共にする委員さん、担当課の職員と活発に意見交換し、そして発行された広報紙を手にした感激は、忘れられるものではありません。市政に参加しているような気持ちになり、ちょっぴり誇らしさを感じている自分に気づいた瞬間でした。

任期を終えて

中野 和子

市民編集会議に十数回出席。8人の委員と市の広報担当者3人で活発な意見交換をし、取材テーマを決定。担当者を選び、担当になれば資料集めや下見などをし、取材に当たります。原稿を書き、ゲラがあがると全員で検討。分かりやすく見応えのある紙面作りに携わりました。

本年度はＮＨＫ大河ドラマ「花燃ゆ」で初代県令楫取素彦（かとりもとひこ）の活躍の地として前橋が物語の舞台に。ガイド役のボランティアさんの話では、県民のみならず、全国から多くの見学者があったとのことを聞き、前橋が全国的に話題になり認知度が高められたことは喜ばしく思っています。

大変勉強になりました

奈良 博吉

編集委員に応募した動機は、各町に昔からある伝統行事、それも小規模であまり知られていないものを掘り起こして広報に掲載したら面白いと思ったためです。わが町では夏になると二つの「灯籠まつり」があります。関係する家も15戸くらいで「灯籠」の数も約30個。小さなお祭りで100年以上続いています。

編集委員になり、最初は天然記念物で全国的にも珍しい大胡神社の「ムクロジ」を取材。次に大河ドラマ「花燃ゆ」ゆかりの地巡りで、寿（ひさ）・文（ふみ）姉妹が信仰心に篤（あつ）かったことが分かりました。また、「前橋かるた」の存在も知りました。大変勉強になりました。

自らの住む場所を見つめ直す機会として

久永　孝

まずは、市民編集委員ならびに市政発信課の皆さんに感謝申し上げます。

このような機会がなければ、自分の住む場所の歴史や現状について関心を抱くことはなかったのではないかと思います。

また、編集委員の皆さんとの会議や取材をとおしての交流は、前橋市民として貴重な経験となりました。

これを機に、市民の皆さんとの交流を図り、前橋市の発展に寄与できれば幸いです。

ありがとうございました。

市民目線だからこそ作れる紙面とは

鷲塚 裕太郎

意気込みを綴ったのは2年前。一般の市政情報との違いをつけるにはどうしたらよいのか、そう考えていたのを覚えています。

前橋市の市民活動に興味があり「やる気の木プロジェクト」という市・県内の学生有志による活動を取材しました。テーマ設定から取材、全てに関わり一つの原稿を仕上げるこの企画。前橋市の今を知り、それを市全域に発信できる機会は大変貴重でした。責任もありますが、市民編集は自分の関心事や目を向けてほしいことをアピールできるチャンス。今後もたくさんの人、特にこれからの前橋を担う若い人たちに経験してほしいです。